

はじめに	1
「小さい林業で稼ぐコツ」 絵目次	4
本書に登場することば解説&さくいん	6

Part 1

誰でもやれる小さい林業

チェンソーと軽トラで自伐

山に入りたい人がこんなにいる	
15の自伐グループが活躍する町（群馬県みなかみ町）	8
ナラは炭木・ホダ木・ウイスキースティックにも	
広葉樹の山で自伐林業	
（岩手県九戸村・九戸山族 夏井辰徳さん）	18

小さい林業で間伐

簡単！皮むき間伐で暗い人工林を豊かな森に	24
藤井芳広	

小さい林業で搬出

コンパクト&パワフル	
電動小型木材搬出機「山猫」	28
小友康広	
伐採木の安全搬出に	
シンプル架線「HANA KO」	30
広瀬幸泰	

Part 2

痛快！山の手入れで稼ぐ

山採り枝物がおもしろい

超お手軽！ナタ1本で始める里山林業	48
津布久隆	
アジサイ、ヒカゲノカズラ……	
里山ゴキゲン枝物図鑑	56
小椋吉範	

お宝資源を採取

新芽、未熟果、葉っぱ、枝……	
「摘むだけ林業」で月5万円の小遣い稼ぎ	60
水野奈緒	
ウラジロガシの枝葉が生薬として売れる	68
久松修平	
クルミの樹皮クラフトが大好評	70
（埼玉県秩父市・ちちぶ吉田くるみの会）	
スギ林の林床キノコ栽培で稼ぐ	72
（岩手県紫波町・高橋久祐さん）	

「コラム」ドングリパウダー	74
小林広典	

Part 3

イマドキの山情報
——山で楽しむ、人を巻き込む

レンタル情報

大人気、山のレンタル「フォレンタ」が拡大中	76
（岐阜県東白川村・俵山共フォレンタ事業部）	
放ったらかしだった里山にキャンプ場オープン	82
（神奈川県横浜市区・美濃口俊雄さん）	

不動産情報

山をいつとき預かる幸せ	
私、移住先で山主になりました！	84
来嶋路子	
知っておきたい山の買い方あれもこれも	90

小さい林業にピッタリ

いま、馬搬が注目されるワケ	31
村上昭浩	

小さい林業で製材

簡易製材機でC材を建材にして売る	32
（神奈川県秦野市・秦野市森林組合）	
山土場で使える製材機「ターボソーミル」	34
皆上伸	

小さい林業で加工

地元の木でグリーンウッドワーク	36
（滋賀県米原市・スーパーストウボ 鈴木孝平さん）	
アイデアxShopBot	
目指すは林業のマイクロ6次産業化	40
田中大也	
「コラム」温水利用の小さい木材乾燥機	46

補助金情報

グループでの森林整備におすすめ	
「山の多面」を使ってみんなで楽しむ林業	94
（岩手県八幡平市・五日市里山を考える会）	

木材トレンド情報

盛岡発！ナラ人気、広葉樹人気の現場より	100
「コラム」土地の相続に関する新制度 山林では？	108
鈴木慎太郎	

Part 4

地域内流通で稼ぐ

かつての薪炭林を木材利用の山へ	
広葉樹の地域流通をつくる（長野県大町市）	110
進化する「木の駅プロジェクト」	
里山の間伐材を薪や板、木工品に	118
平澤和人	
ナラ枯れ材だって使える！	
小学校の机の天板には地元の木を	122
淵上美紀子	
地元の木で旅立つ	
サワラの棺で「ウッドエンド」	124
金子真治	
「コラム」軽トラで移動販売 モバイル木材ショップ	126
香山由人	

掲載記事初出一覧	127
----------	-----

※執筆者・取材先の情報（肩書・所属など）、製品の情報については、一部を除き『季刊地域』および『月刊現代農業』掲載時のものです。

「小さい林業で稼ぐコツ」

絵目次

まとめ＝編集部

イラスト＝河本徹朗

売り方 いろいろ



丸太で売る

5000～6000円/m³
→①、②、③ p118



ホダ木で売る

1万～1万5000円/m³
→②



薪で売る

1万～2万円/m³
→①、②、③ p8



木炭で売る

2万～2万5000円/m³
→②、③ p18



板、角材で売る

5万～6万円/m³
→①、③ p32、p118



木工クラフトで売る

クリのレンゲ3000円/本
→②、③ p36、p124



ちなみにバイオマス発電の燃料用や
製紙用のチップ材で売ると、
2000～3000円/m³だが……

①



②



③



ページは、③（本書）の該当ページ

自分で 製材・乾燥する

→③ p32、p34、p46

自分で 加工する

→③ p40



キャンプスペースとして 売る（レンタル）

10a当たり6万円/年
1300～2600円/4時間
→③ p76、p82

『小さい林業で稼ぐコツ』シリーズには、①～③の本（5ページ上）がある。ここでは①～③のそれぞれの本のおもな掲載内容を絵目次にした。①は、軽トラとチェーンソーでできる伐採・搬出の基本技術、②は里山の広葉樹（雑木）の知られざる値打ちと活用術、③は木材の価値を高める自家製材やナタ・ハサミで採取する山林資源の売り方について詳しく紹介している。



広葉樹（雑木）で稼ぐ

・樹種ごとの値打ちと活かし方
クヌギ、コナラ、ミズナラ、
クスノキ、トチノキ、イタヤカ
エデ、ウルシなど
→②、③ p100、p110

自分で伐採・搬出する

- ・チェーンソーを使いこなす → ①
- ・かかり木を安全に処理する → ②
- ・簡単！皮むき間伐 → ②、③ p24

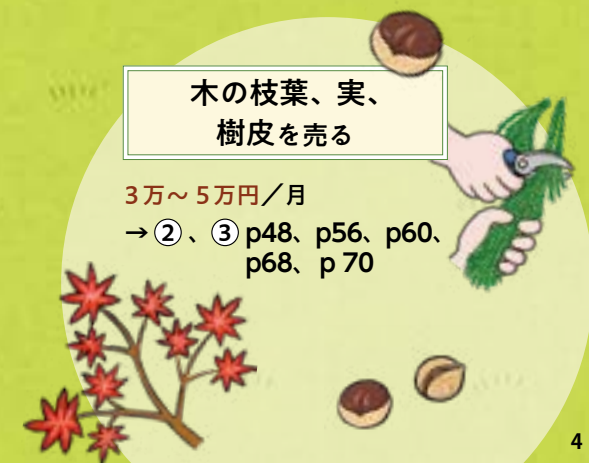
・集材、搬出に便利な機械&道具
→①、②、③ p28、p30

山を買う、山を借りる

→③ p76、p84、p90

木の枝葉、実、 樹皮を売る

3万～5万円/月
→②、③ p48、p56、p60、
p68、p70





自伐グループ「木木木林」のメンバー。左から石飛誠さん、村山英樹さん、本多孝志さん、田宮幸子さん。町が開催した研修をきっかけに自伐に挑戦。持ち山の手入れをどんどん進めている (p14)



農林課課長の原澤真治郎さん

た。間伐などの施業を外部に委託しないで山主自らが切り出せばいい。そんな自伐の発想に、いままでとは違う山づくりの可能性を感じたという。

その後、町として、NPO法人自伐型林業推進協会（自伐協）を招き、フォーラムを開催。すると予想以上の反響で、山主や地域住民、林業関係者など約120人が集まった。参加者へのアンケートでは、約5割が「自伐型林業に挑戦してみたい」と回答。それまでは誰にも見えていなかったが、じつは多くの町民が「できるのであれば自分で山を整備したい」と考えていたのだ。

現在の15の自伐グループの活動や経営、目指す山仕事のあり方はそれぞれ違う。しかし、荒廃が進む山をこれ以上人任せにできないという思いは共通している。

チェンソーと軽トラで自伐

山に入りたい人がこんなにいた 15の自伐グループが活躍する町

群馬県みなかみ町

文〓編集部 写真〓曾田英介

自分の山の木を自分で切る「自伐^{じば}」。

チェンソーと軽トラがあれば誰でもできる小さい林業を、山の持ち主が、一ターンの若者が、続々始めている町がある。

15グループ、約130人が自伐に挑戦

谷川岳の麓にあり、利根川の水源の町として知られる群馬県みなかみ町。人口1万8000人ほどのこの町で、自伐型林業が大いに盛り上がりを見せている。

きっかけは2016年に町が開催した自伐型林業フォーラムだ。フォーラムに参加し、自伐型林業の魅力を知った町民らが次々と自伐グループを結成。2021年には9グループが集まって、自伐型林業の推進を目指し「みなかみ町森林活用協議会」も設立された。新たなグルー

プの結成はその後も続き、2年後には協議会に15グループ、約130人が参加するほど、自伐が町に広がっている。

増え続けてきた手入れされない山

町の面積の約90%、7万haほどが森林で、そのうち1万3000ha余りが民有林、残りは国有林だ。民有林の約65%、8700haほどは広葉樹の天然林（かつての薪炭林）で、コナラやミズナラ、クリ、サクラ、カエデ、奥山ではブナやシラカバなども見られる。数十年前までは、これらを山から切り出して、薪や炭、キ

ノコホダ木として利用していた。

しかし、燃料革命で薪や炭が使われなくなると、そうした里山の利用は減り、放置状態の山が多くなっていった。広葉樹林だけでなくスギの人工林も、木材価格が下がるにつれ手入れがされなくなり、やはり荒廃が進んでいった。

2016年に町が行なったアンケートでは、森林を適切に管理していると回答した山主はわずか1%だったという。

本当は自分で山を整備したい

「これじゃいかん。何かしないと、思っただけですよね」と、自伐型林業フォーラムの開催当時は振り返るのは、みなかみ町役場農林課の原澤真治郎さんだ。

山の手入れを進めるよい手立てを探していたとき、自伐型林業のことを耳にし

「ターボソーミル」

仕様（手動式・M8-13Mモデル）
 ・長さ6.2m×幅2.05m×高さ1.73m
 ・重量310kg
 ・ガソリンエンジン（13馬力）
 ・直径1.2m、長さ4.2mの丸太まで対応
 （オプション装着で6.2mに延長）
 ・参考価格380万～420万円（税抜）
 ＊価格は為替や仕様により変動します。

ターボソーミルジャパン
<https://turbosawmill.jp/>



丸太を載せる架台はなく、枕木の上に載せて挽く



分解して軽トラ
運搬が可能

と見学依頼が増えました。しかし、実際に作業をしてみようと「製材機のある場所まで丸太を運ぶコストが高いので、山土場で製材できればいいのに……」という参加者からの声が毎回聞かれました。

山土場で大活躍のコンパクト製材機

そんな折、SNSでカナダのユーザーバーが、これまで見たことのない丸鋸式製材機を使って、山土場で手際よく作業する動画を発見。それがニュージランドの移動式製材機メーカー、ターボソーミル社の製品です。

動画を見た1カ月後にはニュージラントへ赴き、実機を確認。現場で使う機材として合理的で、日本の小さい林業の大きな武器になると確信しました。その場で正規輸入代理店の契約を結び、帰国後すぐに5台発注、販売を開始しました。

ターボソーミルの最大の特徴は、丸鋸の刃が水平・垂直に90度向きを変えられる「スイング方式」です。丸太を何度も回転させることなく正確に板材や角材を切り出せるため、作業効率も製材の精度も大幅に向上します。

また、丸鋸を1本のレールで固定する



レールに据え付けられたブレードの往復だけで板や角材を正確に製材できる。丸太を置き換える必要もない

山土場で使える製材機「ターボソーミル」

皆上 伸（青森県六戸町・合同会社ユウビレッジ）

課題は丸太の運搬コスト

林業を営む合同会社Yew Village（ユウビレッジ）代表の皆上伸と申します。2021年に妻と2人で起業し、実家の1haの山林経営を起点に、端材を薪として活用しながら、薪ストーブや薪ボイラーの販売・施工、木製品の受注生産などを行なっています。

山の木を育て、伐採・搬出しても丸太のままでは価格が伸びにくい。打開策は板や角材にして用途をつくり、自分で価格を決めて売ることです。そうした木材利用の一丁目一番地が製材です。

ところが現実を見ると、中小規模の製材所は廃業したり、存続していても賃挽きをしてもらえなかったりすることが増えています。仮に賃挽きしてくれる製材所が見つかったとしても、山土場^{やまどほ}から距離が遠くて運搬費が高くつくなど「挽きたくても挽けない」状況が各地で見られます。

そこで、私が最初に考えたことは、帯鋸式の簡易製材機の導入です。海外製の移動可能なものを買って、自社製材を始めました。やがて自伐型林業に取り組む方々を中心に「製材機を見せてほしい」

モノレール設計により、丸鋸の下に丸太を据え付けたり取り出したりが簡単にできます。丸太の据え付け作業の自由度が高く、土場での段取りも組みやすい。

丸鋸の刃は5×8枚で、付属キットを使えば機械から外さずに約3分で研磨できるのもメリット。刃が消耗しても先端部の交換で済むので費用も抑えられます。

分解して軽トラで山に運べる

ターボソーミルの大きさはいくつかありますが、小型で可搬性の高いモデルの重量は約300kg。パツごとに分解して、軽トラに積載可能です。

わが社では、各地に出向いてターボソーミルを使った製材実演もやっています。皆さんスイング方式の高い操作性に驚かれます。丸太を回転させずに四面を決められ、少人数でも作業が容易。体力がいる工数が減ることで製材に集中できます。

山土場で丸太をカットできれば、必要な材だけ乾燥に回し、運搬コストを軽減できます。運搬コストが大きい地域ほど経営改善に直結するはずです。もちろん、工場にターボソーミルを据えてさらに効率よく製材することも可能です。



レストランに人気の季節の草木の詰め合わせセット
(写真は秋の草木)

収穫は、朝の家事がひと通り終わった時間帯。近所を散歩する代わりに、娘を背負って山へ行って採ってきます。木を切るのと違って葉や実を採るだけなので、チェンソーも重機も必要ありません。ハサミと収穫袋をポケットに入れて出かける「摘むだけ林業」です。

散歩ついでの「摘むだけ林業」

収穫は、朝の家事がひと通り終わった時間帯。近所を散歩する代わりに、娘を背負って山へ行って採ってきます。木を切るのと違って葉や実を採るだけなので、チェンソーも重機も必要ありません。ハサミと収穫袋をポケットに入れて出かける「摘むだけ林業」です。



娘と一緒にスギの新芽をもぐ筆者。ハサミと袋さえあれば、いつでもピクニック気分で草木が採集できる



新芽、未熟果、葉っぱ、枝……
「摘むだけ林業」で
月5万円の小遣い稼ぎ

水野奈緒（福島県古殿町）

スギ人工林で草木を採集
福島県南部に位置する古殿町^{ふるどの}で農林業を営んでいる大原林業の水野奈緒と申します。家業の農林業を継いで7年目の夫と集落のおじさんたち3人とともに、現在は150haの山林を管理しています。経営の中心はスギ人工林の間伐による木材生産ですが、そのかたわらで山林に自生する草木を採集し、SNSを利用して販売を行なっています。人工林と聞くと、薄暗くて他の草木が少ないイメージがあるかもしれませんが、しっかり管理されている人工林内には、様々な種類の植物が自生しています。山で採れるものといえば、キノコや山菜？と思われるかもしれませんが、私たちは四季折々のいろんな草木を一年中採っています。

山には未知の香りや味が眠っていた
きっかけは、夫が趣味で記録していた、所有する山林に自生する植物のリスト。それを見て気づいたのは、山には木材や山菜として利用されるもの以外にも、様々な種類の草木が眠っていて、そのほ

大人気、山のレンタル「フォレンタ」が拡大中

岐阜県東白川村・(株)山共フォレンタ事業部

文＝編集部 写真＝尾崎たまき

1区間、年間約6万円で
レンタル

「フォレンタ (forenta)」は1区画およそ10a (約300坪) の山林を、年間約6万円で貸し出すサービスだ。岐阜県東白川村で木材産業に携わる(株)山共^{やまきょう}が運営しており、目下注目の事業となっている。フォレンタは岐阜県から北海道、静岡、京都、福岡にも広がり、各地の事業者とはフランチャイズ契約を締結。当初17だった区画は100を超え、総面積は合計15haほどになる。

山共代表の田口房国さんがフォレンタを始めたきっかけは、近年のキャンプブームの影響で知らない土地の山林を購入する人が増えてきたことだ。「山林を買った人がずっと管理してくれるならいいが、飽きて放置されると困る。でも一般の人たちが山に関心を持ってくれるのは嬉しいし、もっと親しんでもらいたい。両方を実現できるのが山を貸すことだと考えた」

森林空間を自由に楽しめる

国道沿いにある山共の事務所から、南の山手に向かって県道を車で進む。管理されたヒノキ林を10分ほど走ると、森のなかにいきなりテントがいくつも現われた。ここが山共の貸し出している山だ。利用者は年間借りているので、テントや雨よけのタープを張ったままにできる。車を降りてヒノキの林を進むと、あるのはテントだけではなかった。斜面を上りやすいように付けた階段やベンチ、薪置き場、合板でできた小屋まである。これらはすべて利用者が自分でつくったも

ので、多くは区画内の枝や倒木を材料にしている。

貸出区画になっていない場所を見ると、ササが生い茂っている。間伐したときの枝も散らばっている。そんな場所を、利用者自らがササを刈り、枝を拾い集めて居心地のよい場所に変えていくのだ。

もちろん、まったく自由に使えるわけではない。山主が決めた「利用規約」を守る必要がある。例えば、立木を傷つけたり、林内のものを売ったり、機械を持ち込んで整地したりすることはできない。でも細い木は切れるし、区画内の倒木や枝、木の実などは何でも使って構わない。焚き火も自由だ^{*}。山主の了承を得て、サクラの苗木を植えた人もいる。



「フォレンタ (forenta)」発案者の田口房国さん (45歳)

ヒノキ林のなかに現われたレンタル区画。四角い建物が福島由美さん (p78) 用のシェルター

^{*} 2026年1月から「林野火災注意報・警報制度」が全国の自治体で開始。フォレンタでは、この制度に則って、火の使用ルールをあらたに定めた。